

会議名	令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校に関する説明会
開催日時	令和4年7月23日（土）午前10時から11時10分まで
場 所	川島町コミュニティセンター2階大会議室
参加者	17人（傍聴含む）
議 題	（1）令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校に関する説明 （2）説明に対する質疑
出席者	教育長 中村正宏 教育総務課長 鈴木克久 学校統合・学校教育指導幹 関口敬氏 学校統合推進室長 坪内嘉夫 事務局職員 鎌田健志
配布資料	資料 令和7年度つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校
<p>説明会の内容・概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 出席者紹介 4 説明 5 説明に対する質疑 6 閉会 <p>《教育長あいさつ》省略</p> <p>《資料により説明》省略</p>	

《質疑・応答》

質問 統合の際に学校まで近いため徒歩通学をしている。令和7年の統合の際に、通学路の範囲2km以上がバス通学であると話を聞いた。鳥羽井がちょうど2キロだが、スクールバス通学についてはどうお考えか。

回答 スクールバスの基準は学校から直線距離2kmですが、家庭の数なども考慮に入れながら、子供たちが安全に通学できるような運行体制を検討していきます。

来年度立ち上げる統合協議会の中で、学校とPTAの方も交えて、スクールバスをどのように運行したらよいかを考えていきます。

質問 徒歩通学の子供が、通学路のルートが変わり、歩道がない道を通ることになると、安全を確保するための整備にお金がかかる。次の統合の際にも道路の整備にまたお金がかかると思う。安全を確保するためにはお金がかかるが、どう考えているか。

また、自転車で登校する中学生と徒歩で登校する小学生が同じ昇降口だと危険だという心配があるが。

回答 自転車と徒歩による通学では歩道が狭くて危ない箇所や、さらに防犯面について考慮し保護者の皆様と一緒に考えていきます。グリーンベルトが必要な所等についてはグリーンベルトを講じるなど安全面について警察とも協議しながら安全第一に考えていきたい。

川島中学校については、徒歩の子どもは、北門と東門からそれぞれ入って最終的には昇降口で集まる形になります。そこにスクールバスが入ってくることになりますが、公道を挟んだ北側に駐車場があるので、そちらにバスを停めて、公道を渡るときには先生が付いて安全を確保しながら昇降口まで誘導することになります。そこに中学生が自転車で登校となるので、接触しないように先生方が見守りながら子供たちの安全を確保することになります。この点についても、統合協議会で対策を検討していきます。

質問 前期・中期・後期という分け方、1年生から9年生という呼び方は決定なのか。

5年生から希望者は部活動に参加できるということだが、5・6年生になると塾に行くなど、忙しくなる子もいる。5年生から希望して入部している子と中学生から入っている子では差ができて、後から入る子が入りづらい空気になってしまうのではないか。

また、自発性や想像力が欠けるということであったが、中学生と一緒になった時に、小学生が委縮してしまうのではないか。9年生という呼び方によって、高校に上がった時に、周りの市町村との違いがギャップになるのではないかと思う。呼び方は小学校6年生、中学校3年生の方がいいのではないか。

回答 前期・中期・後期という分け方は、4年間の検討のまとめであり、様々な学校のよいところをまとめたものであり、決定ではありません。

部活動については、例えば、坂戸市の城山学園ではテニスを小学生から先に体験することで、県体に出場するなど大変強くなりました。現在、川島町は統合型スポーツクラブで、力のある指導者に教えてもらっていることで、小学校から力がついています。小中一貫教育でも行っているところが県内にもあり、このような方法もあるというまとめをしたものであり、決定ではありません。学年の呼び方をどうするかについては、保護者の皆様から、6年生が最高学年であり9年間だと心配だという意見がありましたので、そのような意見を踏まえながら、小中学校の先生によるチームで考えていきたいと思います。

質問 来年度の統合協議会には、統合の時に在校生となる子の保護者も参加できるのか。協議会で意見を言ったときに、取り入れていただけるのか。

回答 P T Aの方全員というわけではないが、P T A会長や副会長、それに次ぐ方々などに参加いただいて、検討していきます。まだ学校保護者になっていない方もおりますので、そのような方の意見も取り入れていけるようなことを考えていながら決めていきたいと思います。

質問 バス通学の範囲が2 kmということだが、地区がまたがる場合は、どうなるのか。

回答 現在のバスの運行は、廃校になってしまった出丸小学校と小見野小学校が基本ですが、北小学校と南小学校が統合すると、三保谷地区も八ツ保地区も小学校がなくなりますので、地区関係なく基準を設けて、基準が合えば、バス通学という考え方でおります。しかし、2 kmというのも直線距離であって、実測すると曲がりくねって2 km以上登校してくる場合も考えられますので、そのようなことも考慮していきます。地区によっては、近いけれど周りに家がないために一人で登校しなければならない子もいるということも聞いておりますので、そのような場合もなるべくバス通学ができるよう考えていきます。

質問 6月3日から16日まで教職員向けの説明会を行っている。時間がわずか20分という短時間で説明だけされたのか。質疑応答はどうだったのか。また、意見はまとめているのか。

2点目として、教職員数がつばさ南小学校は24人、つばさ北小学校は25人、川島中学校は31人、全部で80人であるが、学校統合があった場合、教職員数は何人になる予定なのか。

3点目として、学校保護者向けの説明会が6月20日から7月1日まで8回行

ール、学童、安全対策等についての個別案件の質問が多く、前向きなご意見が多く、特に小中一貫教育について否定するようなご意見はなかったという認識であります。具体的な内容につきましては、保護者や地域の皆様のご意見をいただきながら、小中一貫教育推進協議会で進めてまいります。

5点目の学級数につきましては、統合前はつばさ南小学校、つばさ北小学校はそれぞれ6学級で12学級ございますが、統合後は1年生と3年生は35人以下になる想定ですので、それぞれが単級になるため、10学級となるということです。

質問 先生方にしてみれば、たった20分や30分の説明では、理解も判断もつかないのではないか。先生方へのきめ細かい説明会を行うべきだと思うがどうか。

2点目に、教職員数が57名だということだが、23名が他の学校に移ることになる。教職員の年収は約700万円である。一億五千万円ほどの人件費が削減できることになる。小中一貫の本当の目的は人件費削減ではないかと感じる。教職員の職場が変わる、辞めざるをえないなどの不安を払拭するために教育委員会は努力するべきではないか。

3点目に、西中学校や川島中学校の参加人数が少ないのは関心がなかったというはその通りだと思う。しかし、保護者にしてみれば、令和17年度からは西中学校と伊草小学校と中山小学校が一体となることが、確定ではないけれども可能性があるという方向である。保護者としては、無関心ではいられないはずである。もう少しきめ細かい説明会や意見交換をするべきだと思うがどうか？

回答 1点目の先生方への説明ですが、各学校の校長や代表の6名の先生は視察に行ったり、議論をしたりして、その都度各校でフィードバックしていただいているので、先生方にとっては、初耳ではありません。何度も議論を重ねて、4年間視察を含めて全体会を年間2回～3回行いました。その間に、どんな授業をするか、どんな行事を行うか、部活やスクールバスなどを含めて議論してきたので、20分の説明で十分です。先生方には、必ずフィードバックしてご意見をまとめてくださいと伝えています。また、実際には校長会等でも伝えているところであり、それほど無理はなかったと思います。

2点目の教職員数についてですが、4校を2校にしたときに、40人の先生を3年間で20人にしました。教職員の人事異動については、比企地区の人事担当者会議を10月から2月まで何回も行き、統合に向けて川島町の先生を減らしたり、臨時的任用教員をより多く入れたりしながらスムーズに異動できるようにしました。学校の在り方や授業の在り方については、学校と一緒に考えておりますが、対話型で深い学びをするような授業をしないと、一斉指導では今後通用しません。これを達成するためには、5、6人、10人ではなく、20人程度のクラスでないと、難しいということを御理解いただいています。苦しいけれども、子

供ファーストで考えると、統合するのはやむなしと考えます。皆さんの意見を取り入れながら、少子化をチャンスと捉えて取り組んでいきます。

3点目の説明会についてですが、前回の統合での説明会も、中山小学校、伊草小学校、西中学校の参加者はほとんどいらっしやいませんでした。それも踏まえて今回は、全員に案内文とともに広報かわじまも印刷して配り、見ていただいて是非ご参加くださいと周知した結果であります。保護者が集まる機会が少ない中で、どのようにして通知するか助言をいただきながら、丁寧に保護者のみなさんへ説明したいと考えています。

質問 川島町の教育予算が減るという事は間違いないことだから、教職員の待遇改善、身分について、間違いなく保証するということを確約してほしい。

回答 教職員の身分保障は任命権者である県教育委員会と連携しながら、加配等についても要求していきます。財政面では、人事的なものは国と県の給与であるが、学校の設置者は川島町であるので、学校に関する予算等をどのようにするかは、町民のみなさんと考えながら、しっかりと進めてまいります。一人一人の先生方については川島町教育委員会が応援するのは当然だと考えています。

質問 統合する子どもたちが卒業するまでは、先生に対応していただくのは限りがあると思うので、保護者にとっても相談しやすい場所があるといい。

回答 子どもたちが一緒になった時の不安感を軽減するために、つばさ北小学校や南小学校では交流事業、合同でプールを行ったり、宿泊学習に行ったりなどの取組を行っています。また、オンライン授業も行っています。実際に小学生が一緒になった時に、相談しやすい場所として、SCもおりますが、小中学校それぞれにいる養護教諭が健康面の管理もあわせて心理面の相談も受け付けるので、2人いることで相談活動が充実するかと思います。

また、小学校と中学校を合わせることで、高学年になると人間関係が複雑になってくるので、先生方も併せて子供たちを見守っていきたいと思います。

質問 4年間、3年間、2年間という区切りをつけるようだが、小学校の卒業式や中学校の入学式は子供にとって大きなイベントである。どのようにするお考えか。

回答 先進校では、6年間の小学校課程を修了したときに、卒業式と同じように、1年生から9年生、保護者の方が参加して修了式を行っています。また、中学校の入学式と同じような学校行事にも取り組んでいます。いずれにしても、子供たちにとっては大きな一つの節目であるので、大切にしていきたいと思います。

質問 学童の場所や人数については具体的に決まっているか。

回答 校舎内に複合教育施設を設けられるかどうかを含めて検討しています。

仮に校舎内に学童を設けることができない場合は、南小と北小の学童まで、下校時に子供をスクールバスで送ることを検討しています。まずは、校舎内に設けられるかを検討し、困難であれば、現在ある学童にスクールバスを使って送り届けるという方向になります。

学童はできるだけ近い方がよいので、低学年棟を作る中で、学童が入るかどうかが、十分検討します。低学年棟を作ると、複数学年が3学年出る予定です。数年経つと低学年棟が空いてくるので、その時にスムーズに移行できるかも含め、なるべく安全安心な学童施設になるようにしたいと考えています。

質問 学童の場所の広さにより人数が絞られてしまうのか。

回答 保護者によって学童は運営していくのが川島町としての方針ですので、そのようなことはありません。

質問 コロナの時代になり、教育の在り方も社会の在り方も大きく変わっている。家庭で生活している皆さんは、学校教育に対して、以前よりも真剣に考えていると思う。次の時代を作る親御さん、若い方の声を拾い上げていただきたい。聞くだけでなく、実際に反映させていただきたいと思う。丁寧な会議をたくさんしていただいています。拾い上げた情報を現実化、具体化していけるようにしてほしい。

いろいろなことで相談したいと思ったときに、どんなにいい体制をつくっても、必ずうまくいかないことが出てくる。そういうことがあった時に、福祉人材や教育関係の人材の配置ではなく、実質的に相談ができ、学校・地域・社会で連携ができる、丁寧な対応ができる川島町であってほしい。

これからを生きる人を育てるということを考えると新しい視点が必要である。その多くを取り入れていただき、学校教育で子供達がよりよく成長して卒業し、社会に貢献できる人間になれることを期待したい。

回答 先が見えない厳しい時代に子供たちがどう生きるか、教育では答えの出ない内容を何人かのチームで議論しながらどうしたら解決できるだろうということを授業課題に入れるとしたのが今回の新しい学習指導要領です。

私たちがどこに何があるとか、何年になにができたなど、覚えているだけではできない問題を作って、学校は取り組んでいます。高校入試問題でいうと、資料から考え、文章化して答えを出す問題、トップ校では数学や英語のレベルが違う問題をだすなど、非常に苦勞して子供たちの力をつけようと努力しています。

小学校の先生の温かさ、中学校の先生の専門性が融合することで、1 + 1 が 3 にしたいと思っています。そういう学校になると信じ、具体的に若者の声を聴き、いろいろな子供たちを誰一人取り残さないような仕組みと教職員集団を作っています。

《課長あいさつ》省略

作成者	教育総務課 学校教育グループ 鎌田健志
-----	---------------------